

学校規模によるメリット・デメリット

	メリット	デメリット
小規模校	<ul style="list-style-type: none"> • 教職員が一人ひとりの学習や生活の状況を把握しやすく、個別にきめ細かな指導が行いやすい。 • 学習や学校行事において、発表する機会やリーダーを経験できる機会が多くなる。 • 異学年間の交流機会が多く、学年を問わず児童相互の関係性が深まりやすい。 • 体験的な学習や校外学習を機動的に行いやすい。 • 学校が一体となった活動がしやすい。 • 教職員間の意思疎通・共通理解が図りやすく、相互の連携がとりやすいことから、課題への迅速な対応がしやすい。 • 施設や設備の利用時間等の調整が行いやすい。 • 地域や保護者との意思疎通、連携が図りやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> • 多様な考えに触れ、学び合い、切磋琢磨する機会が少なくなりやすい。 • クラス替えができないことなどから、人間関係や相互の評価等が固定化しやすい。 • 集団での経験を積みにくく、社会性やコミュニケーションの能力が身につけにくい。 • 運動会などの学校行事や音楽や体育などの学習活動に制約が生じやすい。 • グループ学習などの多様な学習・指導形態が取りにくい。 • 複数の教職員による教材研究や教科指導の研鑽が行いにくい。 • 一人の教職員が様々な業務に関わる必要があるとなる。
大規模校	<ul style="list-style-type: none"> • 多様な考えに触れ、学び合い、切磋琢磨することを通して、個々の資質や能力を伸ばしやすい。 • クラス替えが可能となり、新たな人間関係や多様な集団の形成が図りやすい。 • 集団での経験を通して、社会性やコミュニケーションの能力を身につける機会が多い。 • 運動会などの学校行事や音楽や体育などの学習活動に選択肢が多く、活動の幅が広がやすい。 • グループ学習などの多様な学習・指導形態が取りやすい。 • 教職員数がある程度多くなることから、バランスの取れた教員配置を行いやすく、教材研究や教科指導の研鑽も行いやすい。 • 教職員個々の負担が比較的軽く、方法次第で、教職員の組織的な協力が得やすい。 	<ul style="list-style-type: none"> • 全教職員による児童一人ひとりの把握が難しくなりやすい。 • 学習や学校行事において、発表する機会やリーダーを経験できる機会が少なくなる。 • 異学年間の交流機会が不十分になりやすい。 • 体験的な学習や校外学習の設定が限定的になりやすい。 • 教職員間の意思疎通・共通理解が図りづらいことも生じ、相互の連携が進まず、孤立する教職員も出てくる。 • 施設や設備の利用時間等の面から、学習活動に制約が生じる場合がある。 • 地域や保護者との意思疎通、連携が難しくなりやすい。